

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

6月中旬の夜9時頃、星空を見上げると、東の空には夏の星座がそろそろ姿を見せ始めますが、まだ《春の大三角》や《春の大曲線》を構成する「おとめ座」や「うしかい座」などの春の星座が少し西に傾く程度に夜空を占めています。この「うしかい座」の1等星アルクトゥールスは、全天に21個ある1等星の中で、4番目に明るい星で、南の空の天頂付近に、オレンジ色に輝く

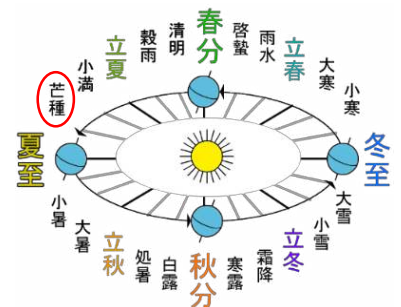


図はステラナビゲーター11を用いて作成

ひときわ目を引く星です。アルクトゥールスは、ギリシャ語で〈くまの番人〉という意味で、「うしかい座」の星座絵の左膝部分で輝いています。「うしかい座」は、天頂近くにあるため天を支える巨人アトラスの姿とか、いつも「おおぐま座」の後をついて回っているように見えることから、大熊を追っている巨人の姿といわれますが、何故か「熊追い」ではなく「うしかい」と名付けられています。古代ギリシャの時代からある星座名なのですが、牛飼いに通じるような神話もなく、どうして名付けられたのか良く分かっていない不思議な星座です。

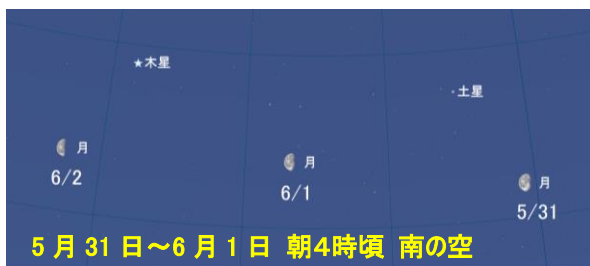
★ 二十四節気・6月5日は《芒種》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。6月上旬の節気は《芒種》といい、毎年6月5日頃になります。《芒種》の「芒」は「のぎ」と読み、イネやムギなど、イネ科の植物の穂先にあるトゲのようなもので、《芒種》は、芒を持つイネやムギなど、穀物の種をまく時期を表しています。とはいえ、現在の種まきはもっと早い時期に行なわれるそうです。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

★ 月が、明け方土星・木星に、夕方金星に接近



明け方、南から南東にかけての空では、土星と木星が並んで輝いています。0.5等ほどの土星と、マイナス約2.5等で強く輝く木星との、コントラストが目を引きまします。また、5月31日から

6月2日にかけて、土星と木星に月が近づきます。土星と木星は、その数日間では位置がほとんど変わらないため、月が移動する動きの速さを観察できるでしょう。また、6月に入ると、夕方の西の空に金星が見えるようになります。とても低い位置に現れるので、日の入りから1時間半ほどで沈んでしましますが、空がまだ明るいうちに観察してみましょう。12日には、細い月が金星に接近します。



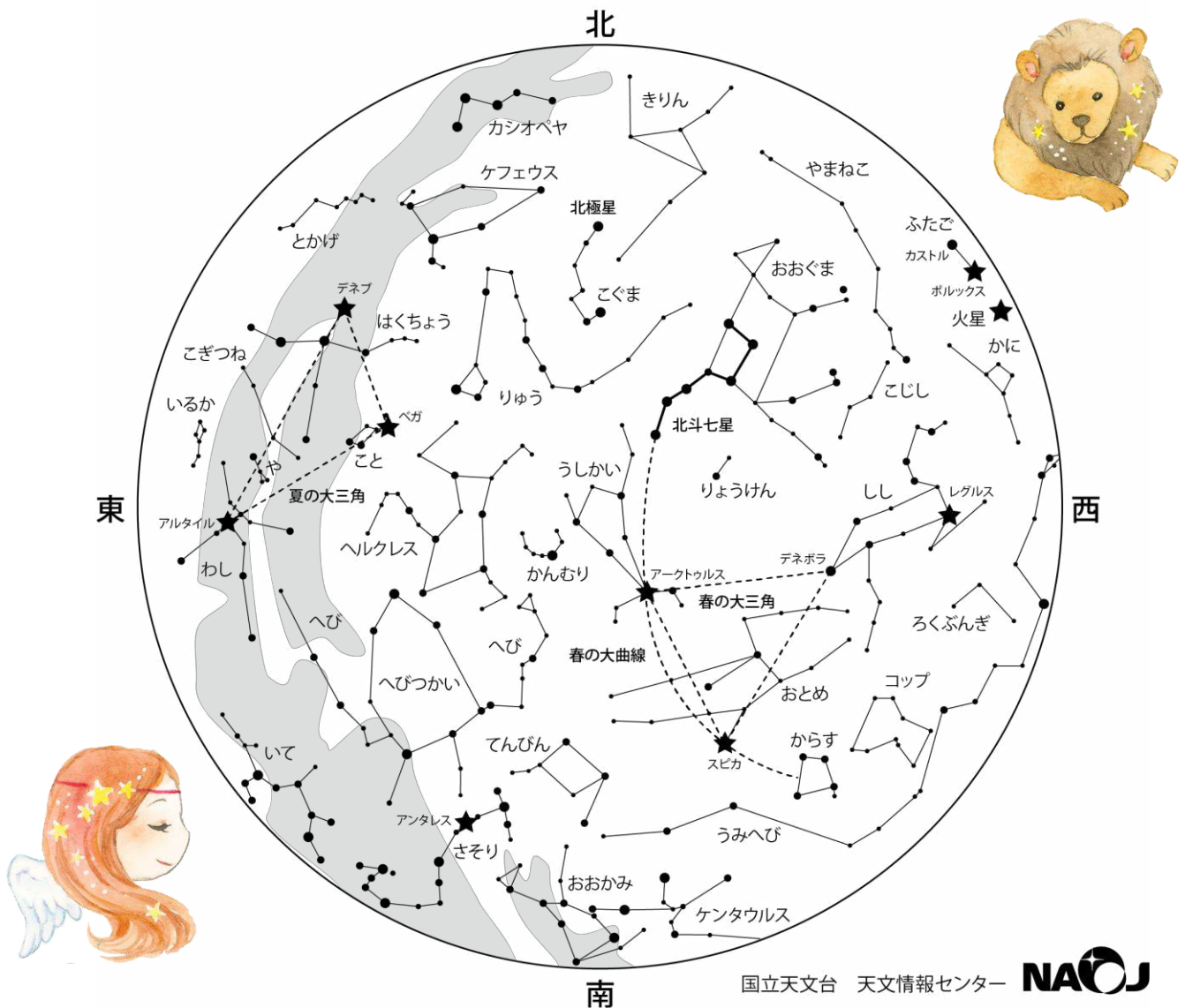
※画像の月は大きさを強調しています

★ 6月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 6/7(月)、14(月)、16(水)、21(月)、28(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

6月上旬午後9時頃の星空



★ 6月上旬の主な天文現象

2日(水) 下弦 木星のガリレオ衛星相互食 (エウロパの影にガニメデが入る)	ロシアで金環日食
5日(土) 芒種	12日(土) 細い月と金星が大接近、 木星のガリレオ衛星相互食 (ガニメデの影にイオが入る)
10日(木) 新月 (カナダ、北極海、	14日(月) 細い月と火星が並ぶ

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 6/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 6月1日(火) [見やすさ ○]	20:51 北西	~	20:55 天頂
◇ 6月2日(水) [見やすさ ◎]	20:04 北西	~	20:09 東南東
◇ 6月3日(木) [見やすさ ○]	20:54 西北西	~	20:57 南西
◇ 6月4日(金) [見やすさ ◎]	20:06 西北西	~	20:11 南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。